

# 食事形態など工夫、歩けるように

グループホームの365日

認知症と  
ともに生きる

185

Gakken Group

MCS

メディカル・ケア・サービス

ず、水分も食事も取れなくなっ  
てしまいました。症状が落ち着  
くと、病院は野澤さんの状態か  
らほかの病院に転院することを  
勧めましたが、家族は「退院後  
は、安心して過ごせていた事業  
所に帰らせたい」と思っていま  
した。家族、病院、事業所で話  
し合った結果、事業所に戻って  
生活を再開することになりました。

野澤忠さん（仮名）は長男と  
2人暮らしをしていましたが、  
日中は1人で過ごすことが多  
く、タバコの火の不始末などが  
増えてきたことから近くに住む  
次女が心配し、当グループホー  
ムへの入居となりました。  
入居2年後に新型コロナウイルス  
に感染して入院しました。  
肺炎を併発してほとんど動け

自力ではベッドから起き上が  
ることもできず、水分摂取もで  
きない野澤さんを見て職員は  
「入院前の野澤さんの姿を取り  
戻したい」と強く思いました。  
通常の食事を食べられない状態  
だったので、栄養分の多い水分  
を取ることから始めました。栄  
養補助飲料を凍らせて小さなか  
けらに砕くなど、野澤さんが摂  
取しやすい方法を考え、提供し

ました。食事では、医療職と相  
談して形態をゼリー状にするな  
ど工夫をすると、次第に食べら  
れる量が多くなっていきまし  
た。1カ月後にはほぼ通常の食  
事ができるようになり、野澤さ  
んは自分の足で立ち、ゆっくり  
と歩けるまで回復しました。そ  
の姿に、野澤さんの家族は涙を  
流しながら喜んでいました。

体を動かすためにはエネルギ  
ーが必要です。そのために食事  
などからエネルギーを摂取する  
わけですが「食べる」という行  
為自体で口や手、内臓を動かし  
ます。したがって、この行為そ  
のものにもエネルギーが使われ  
ます。利用者一人一人が必要な  
エネルギー量を摂取するため  
に、食事形態や食べやすい食材  
の選択をするなど、ケアの工夫  
が必要となります。

「愛の家グループホームこと  
づか」では、これからも利用者  
一人一人に寄り添い、あきらめ  
ずに健康を守り続けるケアを実  
施していきます。

「認知症とともに生きる

グループホームの365日」

は、月曜日に本紙くらし面で、  
火～日曜日に電子版で毎日連

載しています。電子版を読むには「岐阜新

聞Web」への会員登録が必要です。会員

登録のページへは掲載の2次元コードから

入ることができます。



近所職員に訪れた野澤忠さん  
のコンビニで買った物



「愛の家グループホームことづか」

(岐阜市)

ホーム長・田中雅子